

科目名 哲学	実施時間： 1年次 後期 単位： 1 単位 時間数： 30 時間	担当 非常勤講師
授業目標 1. 哲学という学問的営みの方法論，歴史，主要なテーマについてその基礎的な内容を理解する。 2. 人間学において，また特に看護の分野において重要な問題に対する哲学的に堅固な分析力・思考力を養う。		
授業内容・授業計画 ① 導入：哲学とは何か（特に西洋哲学について） ② 西洋哲学史の概観，哲学の主要な領域 ③ 古代哲学（1）：プラトン ④ 古代哲学（2）：アリストテレス ⑤ キリスト教と哲学 ⑥ 中世哲学（2）：トマス・アキナスの形而上学 ⑦ 中世哲学（3）：トマス・アキナスの人間学・倫理思想 ⑧ 近世哲学：デカルト ⑨ 倫理学と人間学の基礎的諸概念 ⑩ 行為の善悪，目的と手段，自然法 ⑪ 安楽死（1）：問題の概要と争点 ⑫ 安楽死（2）：様々な哲学的立場の検討 ⑬ 人工妊娠中絶（1）：問題の概要と争点 ⑭ 人工妊娠中絶（2）：様々な哲学的立場の検討 ⑮ まとめと期末試験（60分）		
受講上の注意 看護という専門領域を念頭に置いてテーマを選定しているので，主体的な学習を求める。	評価方法 1. リアクションペーパー（20%） 2. 期末試験（80%）	
テキスト・参考書 ○ テキストは指定しない。適宜，講義資料を配布する。 ○ 参考文献（一例） <ul style="list-style-type: none"> ・ 荻野弘之ほか『新しく学ぶ西洋哲学史』ミネルヴァ書房（2022年） ・ 赤林朗・児玉聡〔編〕『入門・倫理学』勁草書房（2018年） ・ ホセ・ヨンパルト，秋葉悦子『人間の尊厳と生命倫理・生命法』成文社（2006年） ・ 黒崎剛・吉川栄省『生命倫理の教科書〔第2版〕』ミネルヴァ書房（2022年） 		

講義概要 (シラバス) 令和6年度 (2024年度)

<p>科目名 情報リテラシー</p>	<p>実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時間数： 30時間</p>	<p>担 当 非常勤講師</p>
<p>科目設定理由 情報の定義と特長、ルールを知り、情報通信技術 (ICT) を活用する基礎能力を養う。</p> <p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報とはなにか、また医療情報の特長と電子化への変化について知ることができる。 2) 信頼性のある情報を収集し、理解、評価、活用するという情報リテラシーの意義と重要性について理解できる。 3) インターネットに関する基礎知識と注意点が理解できる。 4) コンピュータの基本操作が習得できる。 5) 文献検索の方法および情報分析の方法を理解し実践できる。 		
<p>授業内容・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報の定義と特長 (科目目標の1) <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と確率、情報とはなにかを理解する 2. 情報の量、情報の質について理解する 3. 文字情報、画像情報について理解する 4. 看護における情報について理解する (2) パソコンの基本操作 (科目目標の4) <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコン各部の名称、構造、機能を理解する 2. OSの概要、内部構造、外部装置について理解する 3. マウスの基本操作、ソフトウェアとハードウェアの違いを理解する 4. コンピュータの歴史 (3) パソコンのソフトウェア (科目目標の2) <ol style="list-style-type: none"> 1. OSとアプリケーションの違いを理解する 2. ファイルの操作 (テキストファイル、画像ファイル) を理解する 3. Pythonを用いてプログラミング言語について理解する 4. Pythonでプログラム作成を実践し、アルゴリズムについても理解する (4) パソコンによる文書作成 (科目目標の2と4) <ol style="list-style-type: none"> 1. Wordによるページ設定、削除、コピー、貼り付けなどの基本操作を理解し実践する 2. Wordによるレイアウトを考慮した文書作成方法を理解し実践する (5) パソコンによる表計算 (科目目標の2と4) <ol style="list-style-type: none"> 1. Excelによる情報の収集・整理、セル、罫線などの基本操作を理解し実践する 2. Excelによる関数、グラフ作成などの応用操作を理解し実践する (6) インターネットの活用 (科目目標の3と5) <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットのしくみ、電子メールの仕組み、利用時のリスクと自衛を理解する 2. 文献検索、情報へのアクセス、データ検索を理解し実践する (7) ホームページの作成 (科目目標の3と4) <ol style="list-style-type: none"> 1. ウェブサイトの閲覧方法を理解し実践する 2. HTML言語によるホームページの作成を理解し実践する (8) 終講テスト 		
<p>受講上の注意 私語・講義中の無断ホームページ閲覧は禁止</p>	<p>評価方法 終講テスト(60%) + 授業の保存データ内容(40%)</p>	
<p>テキスト 看護情報学(第3版) 医学書院</p>		

科目名 「論理的思考の基礎」 (令和6年度)	実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時間数： 30時間	担 当 非常勤講師
授業目標 看護の現場では、様々な医療関係者と協働し、多様な背景を持つ患者に対応する必要がある。そのような現場で日々働く看護師には、自分の考えを論理的に表現する力、他者の考えを正確に理解する力、他者と円滑にコミュニケーションを取る力が求められる。本講義は、そのための基礎力を養うことを目的とする。		
授業内容・授業計画 第1回 オリエンテーションと自己紹介 第2回 伝わる文章を書く技術① 第3回 伝わる文章を書く技術② 第4回 伝わる文章を書く技術③ 第5回 伝わる文章を書く技術④ 第6回 伝わる文章を書く技術⑤ 第7回 医療現場の「やさしい日本語」① 第8回 医療現場の「やさしい日本語」② 第9回 医療現場の「やさしい日本語」③ 第10回 医療現場の「やさしい日本語」④ 第11回 論理的思考力とコミュニケーション力の実際-稲盛和夫『考え方』を読む① 第12回 論理的思考力とコミュニケーション力の実際-稲盛和夫『考え方』を読む② 第13回 論理的思考力とコミュニケーション力の実際-稲盛和夫『考え方』を読む③ 第14回 論理的思考力とコミュニケーション力の実際-稲盛和夫『考え方』を読む④ 第15回 まとめと終講試験		
受講上の注意 毎回講義終了前の5分間、教室内レポート(200字程度、①講義で得た気づき・感想 ②講義後のアクション)を執筆し提出してもらおう。評価の材料ともなるので、真剣に取り組むこと。	評価方法 出席状況 20% 教室内レポート 20% 終講試験 60%	
テキスト・参考書 1. 向後千春『200字の法則 伝わる文章を書く技術』(技術評論社、2019年) 2. 武田裕子・岩田一成・新居みどり『医療現場の外国人対応 英語だけじゃない「やさしい日本語」』(南山堂、2021年) 3. 稲盛和夫『考え方-人生・仕事の結果が変わる』(大和書房、2017年)		

講義概要（シラバス）

科目名 <p style="text-align: center;">教育学</p>	実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時間数： 30時間	担 当 <p style="font-size: 1.2em;">非常勤講師</p>
授業目標 <p>①教育に関する理論や諸概念について、その背後にある社会状況と関連づけながら体系的に理解すること。</p> <p>②自分自身の職業生活や社会生活における教育的な営みのありかたについて、深く具体的に理解すること。</p> <p>③①と②の理解に基づいて、自身の考えを文章形式で論述し、他者と口頭での議論を行うこと。</p>		
授業内容・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 教育とはなにか——「教育」の概念 第3回 教育の対象——子ども観と発達 第4回 社会変動と教育 第5回 教授——人を教えるということ 第6回 訓育——他者とのかかわりを導く 第7回 養護——教育の受け手を見まもる 第8回 発達——教育を受けて成長する 第9回 ジェンダーとセクシュアリティ 第10回 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 第11回 生涯学習 第12回 シティズンシップ教育 第13回 ビブリオバトル① 第14回 ビブリオバトル② 第15回 総括、終講テスト 		
受講上の注意 <p>この講義は、知識を詰め込むことよりも、これまで深く考えたことのなかったことをじっくりと考えて他者と対話することを重視します。頭を柔らかくして、リラックスしながら受講し、クラスメイトと活発に議論してください。</p>	評価方法 <p>試験 60%、毎回の講義で提出するワークシート 30%、ビブリオバトル 10%</p>	
テキスト・参考書 <p>木村元編（2021）『系統看護学講座 基礎分野 教育学（第8版）』医学書院</p>		

科目名 芸術と癒し	実施時期： 1年前期 単 位： 1単位 時間数： 15時間	担 当 非常勤講師
授業目標 文学や美術、音楽に触れることで感性を育むと同時にリラクゼーション効果をもたらす。 地域の歴史や行事から地域の特徴を知ることができる。		
授業内容・授業計画 I 文学 1. 始良市と縁のある椋鳩十が作家として、さらに親子読書運動の提唱者として、 どういったことを人々に伝えたかったのか、その生涯を通して理解する。 2. 椋鳩十文学記念館訪問 椋鳩十文学記念館を訪れ、資料や映像に触れることで、椋鳩十の理解をさらに深める。 また、椋鳩十の作品を実際に読み、鑑賞する。 II 歴史 1. 加治木の歴史 2. 島津家800年の歴史 義博の生き様 III 芸術		
受講上の注意 2/3以上の出席をもって、評価対象とする。	評価方法 レポート 出席	
テキスト・参考書		

講義概要 (シラバス)

科目名 心理学	実施時間： 1年次前期 単位： 1単位 時間数： 30時間	担当 非常勤講師
授業目標 心理学の知識について自分自身や身近な人の体験と重ねて理解できるようになる。		
授業内容・授業計画 第1回 心理学とは 第2回 見えの世界から心について考える 第3回 アタッチメント①：アタッチメントの基盤/ヒト特有の親子関係 第4回 アタッチメント②：愛着行動の発達・個人差 第5回 学習①：古典的条件づけ 第6回 学習②：オペラント条件づけ 第7回 学習③：罰 / 社会的学習 第8回 学習④：行動療法 第9回 感情：情動の理論 第10回 動機づけ 第11回 学習性無力感 / 欲求不満行動 第12回 性格①：暗黙のパーソナリティ理論 / 性格とは 第13回 性格②：性格の測定 第14回 心理学の最近のトピックス 第15回 復習 / テスト		
受講上の注意	評価方法 テスト	
テキスト・参考書		

講義概要（シラバス）

<p>科目名 生物学</p>	<p>実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 15時間</p>	<p>担 当 非常勤講師</p>
<p>授業目標</p> <p>生物学とは微生物、植物、動物などの幅広い生命体の形態や機能、進化について学ぶ学問です。本授業では看護学生として、人体についての専門知識を学ぶための基礎を形成することを目的としています。特に、専門基礎科目である「生化学」との連携・連絡のために必要な内容に焦点を当てた講義を行います。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命体のつくりとはたらき [教科書の序章～第1章] (4月18日(木) 3限: 城山) 2) 細胞のつくりと増殖 [第2、3章] (4月18日(木) 4限: 城山) 3) 遺伝の法則 [第4章] (4月25日(木) 3限: 奥野) 4) 遺伝子の複製、転写、翻訳 [第4章] (4月25日(木) 4限: 奥野) 5) 生殖と発生 [第5章] (5月9日(木) 3限: 城山) 6) 個体の調節 [第6章] ホメオスタシスと各臓器のはたらき (5月9日(木) 4限: 城山) 7) 刺激の受容と行動 [第7章] (5月23日(木) 3限: 奥野) 8) 復習 (5月23日(木) 4限[14:40-15:25] 奥野) <p style="text-align: right;">終講試験 (5月30日(木) 3限)</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>教科書を中心に授業を進めます。毎回の授業の前に講義範囲に目を通しておいてください。また、しっかり復習をしてください。</p>	<p>評価方法</p> <p>出席および最終試験 (授業中に小テストあるいは復習課題を出すこともあります)</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 生物学 (+補足プリント) (教科書第8章以降は講義・試験で扱いません)</p>		

講義概要 (シラバス)

科目名 文化人類学	実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 15時間	担 当 非常勤講師
授業目標 1) 「文化」の多様性と普遍性を通じて、人間にとって文化とはいかなる存在なのかを理解することができる。 2) 医療が文化とどのように関わっているのか理解することができる。		
授業内容・授業計画 第1回：文化人類学とは？ 第2回：家族 第3回：ジェンダーとセクシュアリティ 第4回：ヒトの一生と通過儀礼 第5回：宗教 第6回：病気と信仰 第7回：健康と文化 第8回：現代社会と文化人類学		
受講上の注意 特になし。	評価方法 授業中に課すミニッツ・ペーパー (50%)、期末レポート (50%)	
テキスト・参考書 波平恵美子 (編) 『文化人類学 (第4版)』 (系統看護学講座-基礎分野) 医学書院。		

講義概要 (シラバス)

<p>科目名 生活科学</p>	<p>実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 15時間</p>	<p>担 当 非常勤講師</p>
<p>授業目標 生活科学は「いのち」と「暮らし」にかかわる諸科学の知見を統合することによって生活の守護と質的向上を目指す実践的かつ総合的な学問である。本講座の目標は、自ら賢明な生活者たることを目指すとともに、生活の具体的な場としての地域の快適化と活性化に貢献できるような人材たるべく、「いのち」と「暮らし」にかかわる各分野を総合的に学んでいくことにある。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーションと「生活科学」とは 第2回 家庭生活と家族をどう考えるか 第3回 基礎栄養学 糖質の基礎・脂質の基礎 第4回 アミノ酸・タンパク質の基礎・代謝 第5回 ビタミン・ミネラル (無機質の栄養) 第6回 居心地の良い生活空間と都市の住まい 第7回 生活経営と消費生活 第8回 まとめと評価 (到達の評価) 		
<p>受講上の注意 毎回の資料の提出</p>	<p>評価方法 定期試験 60分 (40%)、毎時間の課題レポート (40%)、授業中の討議発表への参加態度 (20%) による総合評価</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>「改訂基礎栄養学」 木元幸一・中島 滋・林 あつみ 建帛社出版 「家庭科の指導法」 中間美佐子・多々納道子著 建帛社</p>		

講義概要（シラバス）

<p>科目名 レクリエーション論</p>	<p>実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時間数： 15時間</p>	<p>担 当 非常勤講師</p>
<p>授業目標</p> <p>①各スポーツおよびレクリエーション種目に必要な基本的技術を身につける。 ②各スポーツおよびレクリエーション種目のルール、戦術、そして安全面に配慮した指導を行うことができる。 ③各スポーツおよびレクリエーション種目において、レベルに応じたプログラムを提供することができる。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 9/24 火 オリエンテーション・レクリエーションとは 2. 10/1 火 健康とレクリエーション 3. 10/8 火 レクリエーションの特徴と指導者の心得 4. 10/22 火 学生によるレクリエーションイベントの実施・運営① 5. 11/5 火 学生によるレクリエーションイベントの実施・運営② 6. 11/19 火 学生によるレクリエーションイベントの実施・運営③ 7. 12/3 火 学生によるレクリエーションイベントの実施・運営④ 8. 1/7 火 講義の総括 		
<p>受講上の注意</p> <p>体育館での授業の服装については、体育館シューズおよび運動のできる格好で参加することとし、裸足、ジーパン、スウェット、メガネ、そしてアクセサリなどは禁止とする。</p>	<p>評価方法</p> <p>授業への貢献度（70%） レポート課題（30%）</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>授業内で随時紹介する。</p>		

講義概要 (シラバス)

<p>科目名</p> <p>人間関係論 I</p>	<p>実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 30時間</p>	<p>担 当</p> <p>非常勤講師</p>
<p>授業目標</p> <p>1. 人間関係に関する基本理論を理解した上で自己についての振り返りができる。</p> <p>2. 人間関係を作る理論を理解した上で積極的傾聴法やアサーティブな自己表現を实践できる。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <p>1. 人間関係基礎論</p> <p>(1) 看護理論にみる患者・看護師関係 (2コマ)</p> <p>(2) 集団のなかの人間関係 (2コマ)</p> <p>2. 人間関係を作る理論と技法</p> <p>(1) 親密さと自己開示 (1コマ)</p> <p>(2) 積極的傾聴法 (評価を含め7コマ)</p> <p>(3) アサーティブな自己表現 (2コマ)</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>事前にテキストを読んでおくこと。 積極的傾聴法について実習形式で学びます。</p>	<p>評価方法</p> <p>筆記試験及び実技試験, 課題レポート</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』平木典子</p>		

科目名 社会のしくみ（法・制度）	実施時期： 1年前期 単 位： 2単位 時間数： 30時間	担 当 <p style="text-align: center;">非常勤講師</p>
授業目標 1. 社会のしくみ（法・制度）に関する基礎的な知識について、説明することができる。 2. 上記1. の知識を活用しながら、看護師としての職務や人としての生活にあたって生じる課題を適切に解決するための方法を提案することができる。 3. 上記1. 2. の能力を活用しながら、他の人とも話し合い、社会のしくみの改善のために自分なりの提案を行うことができる。		
授業内容・授業計画 第 1回 授業の概略に関するガイダンス / 「健康で文化的な最低限度の生活」とは？ 第 2回 「平等」と「同じ」の違いとは？—みんながより豊かになるために 第 3回 買い物の時の「権利」「義務」と社会科で学んだ「基本的人権」「国民の義務」 第 4回 ルールの種類と作り方—「憲法」と「法律」の違い 第 5回 基本的人権の尊重・国民主権・平和主義—立憲主義と民主主義 第 6回 義務教育はなぜ無償なのか—教育を受ける権利（1） 第 7回 学校の授業の内容や方法は誰が決めるのか—教育を受ける権利（2） 第 8回 中間まとめ—法・制度の考え方と日々の生活や社会 第 9回 救急車を有料化すべきか？—適正な医療制度のあり方 第10回 車いすの人も自力で飛行機に乗るべきか？—障害者・病者の権利 第11回 災害の避難所は雑魚寝でもしょうがないか？—医療や福祉を巡る国際的なルール 第12回 テンダーラビングケアはすべての患者に？—専門職としての医療者に関する考え方の多様性 第13回 ひと相手の仕事はなぜ疲れるのか？—看護師という「新たな」専門職と感情労働 第14回 みんなで決めるべきこととみんなで決めてはいけないこと—民主主義と個人の尊重 第15回 学習のまとめ—個人を大切にすることができる人・社会・国家の作り方 ※以上の授業内容については、授業進行の都合や学生の理解度などによって、順番を入れ換える場合があります。		
受講上の注意 1. 私語をしないこと。 2. 授業に必要な教材などを毎回持参すること。 3. 班での討論や、プレゼンテーションなどに積極的に参加すること。	評価方法 1. 予習課題とリアクションペーパー：40% 2. 終講テスト：60%	
テキスト・参考書 1. テキスト：佐伯・大村・荒木『ポケット六法』（有斐閣）。※最新年版を購入すること。 2. 参考書：授業中に紹介するが、さしあたり、以下の2冊を推薦する。 (a)杉原泰雄『憲法読本 第3版』（岩波書店）。 (b)後藤昭『新版 わたしたちと裁判』（岩波書店）		

講義概要 (シラバス)

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">社会学</p>	<p>実施時期： 1年次後期</p> <p>単 位： 1単位</p> <p>時間数： 30時間</p>	<p>担 当</p> <p style="text-align: center;">非常勤講師</p>
<p>授業目標</p> <p>社会学は、われわれの生活する社会全体について、大局的な視点から考察する方法を備えています。将来、看護現場で経験する人間関係上のさまざまな状況、ケアにおける家族の役割、医療機関をめぐる社会状況の変化を視野に入れ、自己本位に偏らない複眼的な看護を実践できる人を育成することを目標とします。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <p>授業計画は以下のような内容について進める。教材はすべてプリントを使用する。</p> <p>第1回 社会とは何か：社会を形成する要素、社会学という学問の性格について考察する。</p> <p>第2回 社会学の人間観：社会的人間としての人間の捉え方について考えてみる。</p> <p>第3回 社会学における社会現象のとらえ方 (1)：社会学者の代表的な研究手法を紹介する。</p> <p>第4回 社会学における社会現象のとらえ方 (2)：社会学者の代表的な研究手法を紹介する。</p> <p>第5回 対面的コミュニケーションによる社会の維持：顔をつきあわせたコミュニケーション行動から社会について考察する。</p> <p>第6回 地位と役割：私たちが人間関係で担う地位や役割について社会学の視点から考える。</p> <p>第7回 集団と組織：社会を構成する集団と組織について理解する。</p> <p>第8回 家族集団の特殊性：家族集団の特殊性について、社会学の視点から考察する。</p> <p>第9回 現代社会の世帯構成の現状 (1)：核家族世帯、高齢者世帯の増加など、世帯構成の変化について理解を深める。</p> <p>第10回 現代社会の世帯構成の現状 (2)：世帯構成の地域差について理解を深める。</p> <p>第11回 現代社会の世帯構成の現状 (3)：世帯構成の地域差について理解を深める。</p> <p>第12回 ジェンダーとは何か：性別に対する社会的な捉え方について考察する。</p> <p>第13回 社会の中の逸脱 (1)：「逸脱」「社会病理」という考え方は健康な社会を前提にしたものである。何が「逸脱」で何が「病理」なのか、何が「健康な社会」なのかを考えてみる。</p> <p>第14回 社会の中の逸脱 (2)：前回に続いて、社会における逸脱・病理現象について考える。</p> <p>第15回 総まとめ 終講試験</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>他の学生の迷惑になるので、私語は慎むこと。 時折、授業中で課題を出しますので、積極的に取り組むこと。</p>	<p>評価方法</p> <p>終講試験の点数にて評価を行う。</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>授業中で配付するプリントを使用する。複数回にわたり同じプリントを使用することもあるので、忘れずに持参すること。</p>		

科目名 人体の構造と機能 I	実施時期： 1年次 前期 単 位： 2単位 時間数： 45時間	担当 非常勤講師																																																																						
授業目標 <p>解剖生理学は臨床医学の基礎となる学問であり、正常な人体の形と構造について学ぶ。人体は、機能ごとに様々な器官系（器官の集まり）に分けることができるが、授業では各器官系の形と構造を系統的に解説していく。しかし、各器官系は構造的に独立しているのではなく、相互に密接に関係しあって人体を形作っている。したがって、人体全体の形と構造を理解するために個々の系を越えた解説も行う。本科目の受講により、解剖学に関する基本的知識を修得するとともに、臨床の現場において人体に関して専門用語でコミュニケーションがとれるようになる事を目的とする。</p>																																																																								
授業内容・授業計画 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">1回</td> <td style="width: 20%;">4月17日(水)</td> <td style="width: 10%;">1限・2限</td> <td style="width: 15%;">第1章 解剖生理学基礎</td> <td style="width: 55%;">人体の階層性、区分、方向用語、器官系</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>4月24日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>細胞、組織</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>5月8日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td>第2章 消化器系</td> <td>消化器系の構造、口、咽頭、食道、胃、小腸</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>5月15日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>消化と吸収、大腸、膵臓、肝臓、腹膜</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>5月22日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td>第3章 呼吸器系</td> <td>呼吸器系の構造、気道、肺、胸膜</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>5月29日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>呼吸、ガス交換</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>6月5日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>血液、赤血球、白血球、血液型</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月12日(水)</td> <td>1限</td> <td colspan="2">第1回試験(1章、2章、3章 P126まで)</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>6月12日(水)</td> <td>2限</td> <td>第4章 循環器系</td> <td>循環器系の構成、心臓</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>6月26日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>拍出機能、抹消循環系</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>7月3日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td></td> <td>血液循環の調整、リンパ</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>7月10日(水)</td> <td>1限・2限</td> <td>第7章 筋・骨格系</td> <td>骨、関節、骨格筋、体幹の骨格と筋</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>8月28日(水)</td> <td>1限(45min)</td> <td></td> <td>上肢の骨格と筋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月3日(火)</td> <td>1限</td> <td colspan="2">第2回試験(3章 P126から、4章、7章 P319まで)</td> </tr> </table>			1回	4月17日(水)	1限・2限	第1章 解剖生理学基礎	人体の階層性、区分、方向用語、器官系	2回	4月24日(水)	1限・2限		細胞、組織	3回	5月8日(水)	1限・2限	第2章 消化器系	消化器系の構造、口、咽頭、食道、胃、小腸	4回	5月15日(水)	1限・2限		消化と吸収、大腸、膵臓、肝臓、腹膜	5回	5月22日(水)	1限・2限	第3章 呼吸器系	呼吸器系の構造、気道、肺、胸膜	6回	5月29日(水)	1限・2限		呼吸、ガス交換	7回	6月5日(水)	1限・2限		血液、赤血球、白血球、血液型		6月12日(水)	1限	第1回試験(1章、2章、3章 P126まで)		8回	6月12日(水)	2限	第4章 循環器系	循環器系の構成、心臓	9回	6月26日(水)	1限・2限		拍出機能、抹消循環系	10回	7月3日(水)	1限・2限		血液循環の調整、リンパ	11回	7月10日(水)	1限・2限	第7章 筋・骨格系	骨、関節、骨格筋、体幹の骨格と筋	12回	8月28日(水)	1限(45min)		上肢の骨格と筋		9月3日(火)	1限	第2回試験(3章 P126から、4章、7章 P319まで)	
1回	4月17日(水)	1限・2限	第1章 解剖生理学基礎	人体の階層性、区分、方向用語、器官系																																																																				
2回	4月24日(水)	1限・2限		細胞、組織																																																																				
3回	5月8日(水)	1限・2限	第2章 消化器系	消化器系の構造、口、咽頭、食道、胃、小腸																																																																				
4回	5月15日(水)	1限・2限		消化と吸収、大腸、膵臓、肝臓、腹膜																																																																				
5回	5月22日(水)	1限・2限	第3章 呼吸器系	呼吸器系の構造、気道、肺、胸膜																																																																				
6回	5月29日(水)	1限・2限		呼吸、ガス交換																																																																				
7回	6月5日(水)	1限・2限		血液、赤血球、白血球、血液型																																																																				
	6月12日(水)	1限	第1回試験(1章、2章、3章 P126まで)																																																																					
8回	6月12日(水)	2限	第4章 循環器系	循環器系の構成、心臓																																																																				
9回	6月26日(水)	1限・2限		拍出機能、抹消循環系																																																																				
10回	7月3日(水)	1限・2限		血液循環の調整、リンパ																																																																				
11回	7月10日(水)	1限・2限	第7章 筋・骨格系	骨、関節、骨格筋、体幹の骨格と筋																																																																				
12回	8月28日(水)	1限(45min)		上肢の骨格と筋																																																																				
	9月3日(火)	1限	第2回試験(3章 P126から、4章、7章 P319まで)																																																																					
受講上の注意	評価方法 筆記試験を2回行う(各100点満点)。2回の試験の平均点が60点以上を合格とする。																																																																							
テキスト・参考書 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック(医学書院)																																																																								

科目名 人体の構造と機能 II	実施時期： 1年次 前期 単 位： 2単位 時間数： 45時間 (うち15時間)	担当 非常勤講師																																				
授業目標 解剖生理学は臨床医学の基礎となる学問であり、正常な人体の形と構造について学ぶ。人体は、機能ごとに様々な器官系（器官の集まり）に分けることができるが、授業では各器官系の形と構造を系統的に解説していく。しかし、各器官系は構造的に独立しているのではなく、相互に密接に関係しあって人体を形作っている。したがって、人体全体の形と構造を理解するために個々の系を越えた解説も行う。本科目の受講により、解剖学に関する基本的知識を修得するとともに、臨床の現場において人体に関して専門用語でコミュニケーションがとれるようになる事を目的とする。																																						
授業内容・授業計画 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">1回</td> <td style="width: 20%;">9月04日(水) 1限</td> <td style="width: 30%;">第7章 筋・骨格系</td> <td style="width: 40%;">下肢の骨格と筋</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>9月04日(水) 2限</td> <td></td> <td>頭頸部の骨格と筋</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>9月11日(水) 1限</td> <td></td> <td>筋の収縮</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>9月11日(水) 2限</td> <td>第8章 脳・神経系</td> <td>神経系の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>9月18日(水) 1限</td> <td></td> <td>脊髄、脳幹</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>9月18日(水) 2限</td> <td></td> <td>脳</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>9月25日(水) 1限</td> <td></td> <td>脊髄神経、脳神経</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>9月25日(水) 2限</td> <td></td> <td>運動と感覚、伝導路</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">10月03日(水) 1限</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">試験(7章 P320~8章 P397 まで)</td> </tr> </table>			1回	9月04日(水) 1限	第7章 筋・骨格系	下肢の骨格と筋	2回	9月04日(水) 2限		頭頸部の骨格と筋	3回	9月11日(水) 1限		筋の収縮	4回	9月11日(水) 2限	第8章 脳・神経系	神経系の構造と機能	5回	9月18日(水) 1限		脊髄、脳幹	6回	9月18日(水) 2限		脳	7回	9月25日(水) 1限		脊髄神経、脳神経	8回	9月25日(水) 2限		運動と感覚、伝導路	10月03日(水) 1限		試験(7章 P320~8章 P397 まで)	
1回	9月04日(水) 1限	第7章 筋・骨格系	下肢の骨格と筋																																			
2回	9月04日(水) 2限		頭頸部の骨格と筋																																			
3回	9月11日(水) 1限		筋の収縮																																			
4回	9月11日(水) 2限	第8章 脳・神経系	神経系の構造と機能																																			
5回	9月18日(水) 1限		脊髄、脳幹																																			
6回	9月18日(水) 2限		脳																																			
7回	9月25日(水) 1限		脊髄神経、脳神経																																			
8回	9月25日(水) 2限		運動と感覚、伝導路																																			
10月03日(水) 1限		試験(7章 P320~8章 P397 まで)																																				
受講上の注意	評価方法 筆記試験を行い100点満点で評価する。60点以上を合格とする。																																					
テキスト・参考書 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)																																						

講義概要(シラバス)

科目名 人体の構造と機能II	実施時期: 1年次前期 単位: 2単位 時間数: 45時間(うち30時間)	担当 非常勤講師
授業目標 <p style="text-align: center;">医療の基礎となる人体の構造と機能を学び、将来の看護に必要な知識の土壌を構築する</p>		
授業内容・授業計画 令和6年度 6月13日 5章 体液の調節と尿の生成1 6月27日 5章 体液の調節と尿の生成2,3 7月1日 6章 内蔵機能の調整1,2 7月8日 6章 内蔵機能の調整3,4 8月29日 9章 5章と6章の復習、身体機能の防御と適応1 9月12日 9章 身体機能の防御と適応2,3 9月19日 10章 生殖・発生と老化のしくみ1,2 9月26日 10章 生殖・発生と老化のしくみ3,9章と10章の復習 10月10日 1限のみ(終講テスト含む)		
受講上の注意 <p style="text-align: center;">予習・復習を行う</p>	評価方法 <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	
テキスト・参考書 <p style="text-align: center;">医学書院 解剖生理学 人体の構造と機能、医学書院 解剖生理学ワークブック、</p>		

科目名 運動生理学	実施時期: 1年次 後期 単 位 : 1単位 時間数: 15 時間	担 当 非常勤講師
授業目標 <p>解剖学(人体の構造)・生理学の知識をもとに、運動による生理学的変化(神経系・運動器・呼吸器・循環器) について理解する。また、運動と健康との関連性について理解し、生活支援や健康づくり、介護予防等に生かすことをねらいとする。</p>		
<授業内容・授業計画> <ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション、「運動」とは ② 日常生活動作 ③ 運動と筋 ④ 運動と筋② ⑤ 運動と神経 ⑥ 運動と神経 実技 ⑦ 運動と認知機能 ⑧ 運動処方、健康増進の取り組み 		
受講上の注意 <p>解剖学、生理学の知識を基に講義を進めていくため、特に次回の講義内容に関する復習をしてから講義を受講すること。</p>	評価方法 <p>終講テストによる評価(70%) レポートによる評価 (20%) 授業出席による評価 (10%)</p>	
テキスト・参考書 <p>「解剖生理学 人体の構造と機能①」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」日本看護協会出版会 「運動生理学20講 第3版」朝倉書店</p>		

科目名 看護のための機能学	実施時期：1年次 後期 単 位：1単位 時間数：30時間	担 当 非常勤講師 春田 涼香 ほか
学習目標 1. 生活行動からみたからだのしくみが理解できる。 2. 病んだ時のからだの変化と生活行動の変化に気づくことができる。		
授業内容・授業計画 1. 生活行動からみたからだのしくみが理解できる。 1)何のための生活行動か 2)恒常性維持のための物質の流通と調節機構 3)外部環境とからだ 4)動く 5)食べる 6)息をする 7)トイレに行く 8)話す・聞く 9)眠る 10)お風呂に入る 11)子どもを産む 2. 病んだ時のからだの変化と生活行動の変化に気づくことができる。 1)学習課題の提示 2)グループ学習法		
受講上の注意 1) 事前学習をして臨むこと 2) 課題の提出期限を守ること 3) 演習はグループで協力して臨むこと	評価方法 2/3の出席をもって評価を行う 1) 出席および課題提出状況 2) 小テスト 3) 演習課題・レポート内容(理解度)	
テキスト・参考書 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 菱沼 典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 第4版		

講義概要 (シラバス)

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生化学</p>	<p>実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 15時間</p>	<p>担 当</p> <p style="text-align: center;">非常勤講師</p>
<p>授業目標</p> <p>生化学とは生体や細胞を構成する物質とそれらが引き起こす化学反応を知ることにより、人体のしくみを理解する学問です。生化学の講義では、生体のエネルギー源である糖質や脂質、細胞の構成成分である生体膜やタンパク質、などの物質・分子の構造や機能および代謝や調節機構を学習します。また、代謝異常や調節の破綻、遺伝情報異常による疾患についても学習し、看護学専門分野を学ぶための基礎を作ります。</p>		
<p>授業内容・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖質の構造と機能[教科書 第3章] (6月6日(木) 3限: 奥野) 2) 糖質の代謝と疾患[第4章] (6月6日(木) 4限: 奥野) 3) 脂質の構造と機能[第5章] (6月20日(木) 3限: 城山) 4) 脂質の代謝と疾患[第6章] (6月20日(木) 4限: 城山) 5) タンパク質の構造と機能[第7章] (7月4日(木) 3限: 奥野) 6) タンパク質の代謝と疾患[第8章] (7月4日(木) 4限: 奥野) 7) シグナル伝達[第14章] (7月13日(木) 3限: 城山) 8) がん[第15章] (7月13日(木) 4限[14:40-15:25] 城山) <p style="text-align: center;">終講試験 (8月29日(木) 3限)</p>		
<p>受講上の注意</p> <p>教科書を中心に授業を進めます。毎回の授業の前に講義範囲に目を通しておいてください。また、しっかり復習をしてください。</p>	<p>評価方法</p> <p>出席および最終試験 (授業中に小テストあるいは復習課題を出すこともあります)</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学 (+補足プリント) (教科書第9-13章は、生物学の内容と重複するため、生化学の講義・試験で扱いません)</p>		

講義概要（シラバス）

科目名 病理学総論	実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時間数： 15時間	担 当 非常勤講師
授業目標 ① 病気の内因、外因を説明できる。 ② 細胞や組織の形成される段階の障害による病気の原因を説明できる。 ③ 細胞や組織が機能する段階での障害による病気の原因を説明できる。 ④ 病気の回復過程を説明できる。		
授業内容・授業計画 病理学総論では、「病気」を「理解」するために学んでいきます。ヒトは外的な因子である微生物により細胞や臓器が障害をうけて感染症を発症し、また遺伝素因の内的因子や発がん物質などの外的因子により腫瘍を発症してしまいます。発症した病気を治そうとする、ヒトに備わっている能力として免疫・炎症があります。ヒトは障害をうけた際に、どのように再生や修復をして回復に向かうのかを学びます。このように、医療現場に出た際に病気の予防や病気からの回復への援助を行うための基礎的な医療知識を学びます。 【講義日程】 1. ①病理学とは ②細胞・組織の障害と修復 2. ①循環障害(1) ②循環障害(2) 3. ①炎症 ②免疫 4. ①アレルギー ②自己免疫 5. ①感染症(1) ②感染症(2) 6. ①代謝障害と老化 ②先天異常と遺伝子異常 7. ①腫瘍(1) ②腫瘍(2) 8. ①腫瘍(3)		
受講上の注意 特になし	評価方法 テスト	
テキスト・参考書 ・系統看護学講座 「病理学」 医学書院 ・系統看護学講座 「病態生理学」 医学書院		

科目名 疾病と治療 I (呼吸器疾患)	実施時期： 1年後期 単 位： 1 / 2 単位 時間数： 15 / 30 時間	担 当 非常勤講師
授業目標 呼吸器の疾患と必要な検査について理解する		
授業内容・授業計画 第1回 呼吸器の看護を学ぶにあたって 呼吸器の構造と機能 第2回 症状とその病態整理 検査と治療・処置 第3回 感染症 第4回 間質性肺炎と気道疾患 第5回 肺循環障害・呼吸不全・呼吸調節に関する疾患 第6回 肺腫瘍 第7回 胸膜・横隔膜の疾患 第8回 まとめ		
受講上の注意	評価方法 終講試験 (100%)	
テキスト・参考書 医学書院 成人看護学2 呼吸器 第15版		

講義概要（シラバス）

科目名 疾病と治療Ⅰ （循環器疾患）	実施時期: 1年次後期 単 位: 1/2単位 時 間 数: 15時間	担 当 非常勤講師
授業目標 1) 心臓また動脈，静脈の構造と機能を理解する。 2) 循環器疾患に関する診察と診断の流れを理解する。 3) 循環器疾患の診断に用いられる検査法を理解する。 4) 循環器疾患の病態，治療法を理解する。		
授業内容・授業計画 10/2 心電図（検査方法，判読）・不整脈 10/9 循環器疾患における胸部 X 線検査，心エコー，心臓カテーテル法，血行動態モニタリング 虚血性心疾患（労作性狭心症・冠攣縮性狭心症・不安定狭心症） 10/16 虚血性心疾患（心筋梗塞）とそのリハビリテーション，冠状動脈硬化の危険因子 10/23 心不全・血圧異常 10/30 弁膜症（僧帽弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症・大動脈弁狭窄症・大動脈弁閉鎖不全症） 心膜炎（急性心膜炎・慢性収縮性心膜炎） 11/6 心筋疾患（心筋症・心筋炎），肺性心，先天性心疾患（動脈開存症・心房中隔欠損症） 11/13 先天性心疾患（心室中隔欠損症・ファロー四徴症・完全大血管転位症） 動脈系疾患（大動脈瘤・大動脈解離・バージャー病・閉塞性動脈硬化症・大動脈炎症候群 など） 11/20 静脈系疾患，リンパ系疾患 11/28 終講テスト		
受講上の注意 特になし	評価方法 終講テストにて評価する。	
テキスト・参考書 成人看護学[3] 循環器 （医学書院）		

講義概要(シラバス)

科目名 薬理学	実施時期: 1年次後期 単位: 1単位 時間数: 30時間	担当 非常勤講師																								
授業目標 医療における薬物療法の重要性を学ぶと共に、「薬物の適正使用及び安全対策」を目的として、各種の疾患における主要な薬物の「主作用、副作用、作用機序、および薬物-薬物、薬物-食物相互作用」等に関する知識を習得する。																										
授業内容・授業計画 令和6年度 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">10月15日</td> <td style="width: 10%;">1-2章</td> <td>薬力学-薬物動態学から見た薬物療法について薬物の作用機序と体内動態の概念について学ぶ。薬効・毒性に影響する因子、薬物相互作用、薬害について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>10月29日</td> <td>3章</td> <td>抗感染症薬：抗生物質：作用点と薬物相互作用を中心に学ぶ。合成化学療法薬について薬物相互作用と院内感染を中心に学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>11月12日</td> <td>4-5章</td> <td>抗がん薬・免疫治療薬：薬の作用点と副作用対策を中心に学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>11月26日</td> <td>6-7章</td> <td>抗アレルギー薬・抗炎症薬</td> </tr> <tr> <td>1月14日</td> <td>7-8章</td> <td>末梢・中枢神経作用薬：自律神経系の解剖生理と末梢神経作用薬、中枢神経系の解剖生理と各種向精神薬について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1月21日</td> <td>9-11章</td> <td>循環器系・呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系・物質代謝に作用する薬物について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>1月28日</td> <td>12-付章</td> <td>皮膚科用薬・眼科用薬・救急で使用される薬物・漢方・消毒薬輸液製剤・輸血剤</td> </tr> <tr> <td>2月4日</td> <td></td> <td>1限のみ(終講テスト含む)</td> </tr> </table>			10月15日	1-2章	薬力学-薬物動態学から見た薬物療法について薬物の作用機序と体内動態の概念について学ぶ。薬効・毒性に影響する因子、薬物相互作用、薬害について学ぶ。	10月29日	3章	抗感染症薬：抗生物質：作用点と薬物相互作用を中心に学ぶ。合成化学療法薬について薬物相互作用と院内感染を中心に学ぶ。	11月12日	4-5章	抗がん薬・免疫治療薬：薬の作用点と副作用対策を中心に学ぶ。	11月26日	6-7章	抗アレルギー薬・抗炎症薬	1月14日	7-8章	末梢・中枢神経作用薬：自律神経系の解剖生理と末梢神経作用薬、中枢神経系の解剖生理と各種向精神薬について学ぶ。	1月21日	9-11章	循環器系・呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系・物質代謝に作用する薬物について学ぶ	1月28日	12-付章	皮膚科用薬・眼科用薬・救急で使用される薬物・漢方・消毒薬輸液製剤・輸血剤	2月4日		1限のみ(終講テスト含む)
10月15日	1-2章	薬力学-薬物動態学から見た薬物療法について薬物の作用機序と体内動態の概念について学ぶ。薬効・毒性に影響する因子、薬物相互作用、薬害について学ぶ。																								
10月29日	3章	抗感染症薬：抗生物質：作用点と薬物相互作用を中心に学ぶ。合成化学療法薬について薬物相互作用と院内感染を中心に学ぶ。																								
11月12日	4-5章	抗がん薬・免疫治療薬：薬の作用点と副作用対策を中心に学ぶ。																								
11月26日	6-7章	抗アレルギー薬・抗炎症薬																								
1月14日	7-8章	末梢・中枢神経作用薬：自律神経系の解剖生理と末梢神経作用薬、中枢神経系の解剖生理と各種向精神薬について学ぶ。																								
1月21日	9-11章	循環器系・呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系・物質代謝に作用する薬物について学ぶ																								
1月28日	12-付章	皮膚科用薬・眼科用薬・救急で使用される薬物・漢方・消毒薬輸液製剤・輸血剤																								
2月4日		1限のみ(終講テスト含む)																								
受講上の注意 予習・復習を行う	評価方法 筆記試験																									
テキスト・参考書 教科書 系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 (医学書院) 参考書 イラストレイテッド薬理学 (丸善) 薬の基本とはたらきがわかる薬理学(羊土社)																										

科目名 臨床薬理	実施時期 ：1年次 後期 単 位 ： 1 時間数 ： 15時間	担 当 非常勤講師
授業目標 臨床でくすりを正しく使用できるための知識と技術を修得する		
授業内容・授業計画 I. 臨床薬理の意義と薬物療法の基礎知識 1. 臨床薬理とは 2. 薬物療法の基礎知識 II. 指示受け 1. 処方箋の記載事項 2. 内服処方箋の読み取り 3. 注射指示箋の読み取り III. 注意すべき薬剤と薬剤管理 1. 注意すべき薬剤 ①キシロカイン ②カリウム製剤 ③カテコールアミン 2. 薬剤管理 IV. 薬の計算 1. 投与量の計算 ①薬の単位 ②濃度 ③希釈 ④投与速度 V. 服薬支援 1. 添付文書と薬剤鑑別 2. 剤形別の服薬支援 3. 小児・高齢者の服薬支援 VI. 点滴注射の実際・輸液ポンプの取り扱い 1. 点滴静脈内注射 2. 輸液ポンプ・シリンジポンプ		
受講上の注意 「薬理学」の知識を活用して臨む	評価方法 1) 事前課題及び小テスト 2) 終講テスト	
テキスト・参考書 1) 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2023 2) 任 和子：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 2021 3) 吉岡 充弘：系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 2023 4) 川村 治子：系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院 2023		

講義概要 (シラバス)

科目名 <p style="text-align: center;">栄 養 学</p>	実施時期： 1年次後期 単 位： 1単位 時 間 数： 30時間	担 当 <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">非常勤講師</p>
授業目標 <p>栄養素の消化・吸収・代謝および生理作用について学び、人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本を理解できる。</p>		
授業内容・授業計画 <p>1回 1. 人間栄養学 1. 栄養と栄養素 1) 五大栄養素 2) 三大栄養素</p> <p>2回 2. 人体を構成する栄養素のはたらきⅠ 1. 炭水化物 2. 脂質</p> <p>3回 3. 人体を構成する栄養素のはたらきⅡ 1. タンパク質 2. ビタミン 3. ミネラル</p> <p>4回 4. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝</p> <p>5回 5. エネルギー代謝 6. 食事と食品</p> <p>6回 7. 栄養状態の評価・判定 8. ライフステージと栄養</p> <p>7回 9. 健康づくりと食生活</p> <p>8回 10. 食生活と栄養食事療法</p> <p>9回 11. ライフステージと栄養 (1)</p> <p>10回 11. ライフステージと栄養 (2)</p> <p>11回 12. 褥瘡・循環器疾患の食事療法</p> <p>12回 13. 消化器・循環器疾患の食事療法</p> <p>13回 14. 消化器・周手術期・栄養代謝疾患の栄養食事療法</p> <p>14回 15. 栄養代謝疾患・腎臓疾患の食事療法</p> <p>15回 まとめ</p>		
受講上の注意	評価方法 <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	
テキスト・参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能3 栄養学 医学書院 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 文光堂 		

科目名 社会保障制度	実施時期： 1年後期 単 位： 1単位 時間数： 30時間	担 当 非常勤講師																																													
授業目標 社会保障制度 保健・医療 社会福祉, 所得保障, 労災・雇用, 公衆衛生) について, その概念 歴史的な経緯・動向 現在の状況・課題, 将来への展望などについて理解する。																																															
授業内容・授業計画 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 回</td> <td style="width: 40%;">社会保障制度と社会福祉</td> <td style="width: 50%;">社会保障制度</td> </tr> <tr> <td>第 回</td> <td>社会保障制度と社会福祉</td> <td>／社会福祉の法制度</td> </tr> <tr> <td>第 3回</td> <td>現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向</td> <td>現代社会の変化, 社会保障・社会福祉の動向</td> </tr> <tr> <td>第 4回</td> <td>医療保障</td> <td>医療保障制度の沿革, 医療保障制度の構造と体系, 健康保険と国民健康保険</td> </tr> <tr> <td>第 5回</td> <td>医療保障</td> <td>高齢者医療制度, 保険診療のしくみ, 公費負担医療, 国民医療費</td> </tr> <tr> <td>第 6回</td> <td>介護保障</td> <td>介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史, 介護保険制度の概要, 介護保険制度の課題と展望</td> </tr> <tr> <td>第 7回</td> <td>所得保障</td> <td>所得保障制度のしくみ, 年金保険制度, 社会手当, 労働保険制度</td> </tr> <tr> <td>第 8回</td> <td>公的扶助</td> <td>貧困・低所得問題と公的扶助制度, 生活保護制度のしくみ</td> </tr> <tr> <td>第 9回</td> <td>公的扶助</td> <td>低所得者対策, 近年の動向</td> </tr> <tr> <td>第 回</td> <td>社会福祉の分野とサービス</td> <td>高齢者福祉, 障害者福祉(前半)</td> </tr> <tr> <td>第 回</td> <td>社会福祉の分野とサービス</td> <td>障害者福祉(後半), 児童家庭福祉</td> </tr> <tr> <td>第 回</td> <td>社会福祉実践と医療・看護</td> <td>社会福祉援助とは, 個別援助技術, 間接援助技術と関連援助技術</td> </tr> <tr> <td>第 回</td> <td>社会福祉実践と医療・看護</td> <td>社会福祉援助の検討課題, 医療・看護・福祉の連携の重要性, 社会福祉実践と医療・看護との連携, 連携の場面とその方法</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>社会福祉の歴史</td> <td>社会福祉の歴史の見方, イギリスの社会福祉の歴史, 日本の社会福祉の歴史</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ, 終講テスト</td> <td></td> </tr> </table>			第 回	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度	第 回	社会保障制度と社会福祉	／社会福祉の法制度	第 3回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	現代社会の変化, 社会保障・社会福祉の動向	第 4回	医療保障	医療保障制度の沿革, 医療保障制度の構造と体系, 健康保険と国民健康保険	第 5回	医療保障	高齢者医療制度, 保険診療のしくみ, 公費負担医療, 国民医療費	第 6回	介護保障	介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史, 介護保険制度の概要, 介護保険制度の課題と展望	第 7回	所得保障	所得保障制度のしくみ, 年金保険制度, 社会手当, 労働保険制度	第 8回	公的扶助	貧困・低所得問題と公的扶助制度, 生活保護制度のしくみ	第 9回	公的扶助	低所得者対策, 近年の動向	第 回	社会福祉の分野とサービス	高齢者福祉, 障害者福祉(前半)	第 回	社会福祉の分野とサービス	障害者福祉(後半), 児童家庭福祉	第 回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助とは, 個別援助技術, 間接援助技術と関連援助技術	第 回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助の検討課題, 医療・看護・福祉の連携の重要性, 社会福祉実践と医療・看護との連携, 連携の場面とその方法	第14回	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史の見方, イギリスの社会福祉の歴史, 日本の社会福祉の歴史	第15回	まとめ, 終講テスト	
第 回	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度																																													
第 回	社会保障制度と社会福祉	／社会福祉の法制度																																													
第 3回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	現代社会の変化, 社会保障・社会福祉の動向																																													
第 4回	医療保障	医療保障制度の沿革, 医療保障制度の構造と体系, 健康保険と国民健康保険																																													
第 5回	医療保障	高齢者医療制度, 保険診療のしくみ, 公費負担医療, 国民医療費																																													
第 6回	介護保障	介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史, 介護保険制度の概要, 介護保険制度の課題と展望																																													
第 7回	所得保障	所得保障制度のしくみ, 年金保険制度, 社会手当, 労働保険制度																																													
第 8回	公的扶助	貧困・低所得問題と公的扶助制度, 生活保護制度のしくみ																																													
第 9回	公的扶助	低所得者対策, 近年の動向																																													
第 回	社会福祉の分野とサービス	高齢者福祉, 障害者福祉(前半)																																													
第 回	社会福祉の分野とサービス	障害者福祉(後半), 児童家庭福祉																																													
第 回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助とは, 個別援助技術, 間接援助技術と関連援助技術																																													
第 回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助の検討課題, 医療・看護・福祉の連携の重要性, 社会福祉実践と医療・看護との連携, 連携の場面とその方法																																													
第14回	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史の見方, イギリスの社会福祉の歴史, 日本の社会福祉の歴史																																													
第15回	まとめ, 終講テスト																																														
受講上の注意 看護師に必要な基礎知識として, 普遍的な制度である社会保障制度の概要について, 真摯に学ぶこと	評価方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・出席状況</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>・各回テスト</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>・終講テスト</td> <td style="text-align: right;">80%</td> </tr> </table>		・出席状況	10%	・各回テスト	10%	・終講テスト	80%																																							
・出席状況	10%																																														
・各回テスト	10%																																														
・終講テスト	80%																																														
テキスト・参考書 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 (3) 『社会保障・社会福祉』 (医学書院 2024年)																																															

科目名 看護学概論Ⅰ	実施時期： 1年次 前期 単 位： 1単位 時間数 : 30時間	担 当 松元 マキ
授業目標 看護の対象である人間を生活者として捉え、どのように看護を考えていくのか、その学び方と基本となる概念や理論を学ぶ。		
授業内容・授業計画 Ⅰ. 看護を考えるための学び方 1. 読む・書く・話す 2. グループワーク 3. 文献学習 Ⅱ. 看護の本質 1. 看護の変遷 2. 看護の定義 ①保健師助産師看護師法 ②職能団体 ③理論家の考え方 3. 看護の役割と機能（保健師助産師看護師法に基づく業務） Ⅲ. 看護の対象 1. 人間の「こころ」と「からだ」、統合体としての人間 2. 成長・発達する存在 3. 生活者としての存在 Ⅳ. 看護における倫理 1. 倫理とは何か 2. 看護における倫理 3. 看護者の倫理綱領 Ⅴ. 健康の概念 1. 健康とは何か 2. 社会の変遷と健康観の変化 3. 生活者と健康 Ⅵ. 人間と環境 1. 環境とは何か 2. 看護における環境調整の意義 Ⅶ. 看護とは まとめ		
受講上の注意 1) グループワークにおける“学び方”をしっかり守り、積極的に参加する 2) 医療や看護に関する情報を可能な限り収集し、看護を考える機会とする	評価方法 1) 課題レポート 2) 発表内容 3) 終講テスト	
テキスト・参考書 茂野 香おる他：系統看護学講座 看護学概論 第17版 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール著：小玉香津子・尾田葉子訳 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 湯植 ます・小玉香津子：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		
実務経験： 本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 看護学概論Ⅱ	実施時期 ： 1年次 後期 単 位 ： 1単位 時間数 ： 30時間	担 当 松元 マキ
授業目標 看護の対象理解に必要な視点と健康状態の経過に基づく対象の特徴と健康上のニーズを把握し、必要な看護を理解できる。		
授業内容・授業計画 I 対象理解の視点 1. ライフサイクルから捉えた看護 2. 健康状態の経過 ①急性期 ②リハビリテーション期 ③慢性期 ④終末期 II 健康状態の経過に伴うニーズと看護 1. 健康の維持・増進期にある対象と家族 2. 急性期にある対象と家族 3. リハビリテーション期にある対象と家族 4. 終末期にある対象と家族 III. 看護のもつ機能と役割		
受講上の注意 1) 看護学概論Ⅰで学んだ看護の概念や理論を活用する 2) ワークには主体的に参加する	評価方法 1) ポストテスト 2) 終講テスト	
テキスト・参考書 茂野 香おる他：系統看護学講座 看護学概論 第17版 医学書院 香春 知永他：系統看護学講座 臨床看護総論 第7版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 第16版 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール著：小玉香津子・尾田葉子訳 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 湯楨 ます・小玉香津子：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		
実務経験 ：本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 基礎看護技術 I - 1 (共通基本技術) 技術導入・コミュニケーション 安全・安楽・環境調整	実施時期： 1年次前期 単 位： 1単位 時間数： 30時間	担 当 早 渕 千 尋 平 田 美 樹 春 田 涼 香 島 田 渉 子
授業目標 1. 看護行為における看護技術の位置づけと技術の概要を理解できる。 2. 人間関係を成立させるコミュニケーションの必要性を認識し、看護に必要なコミュニケーション技術の基礎を習得する。 3. 看護における安全の意義を理解し、医療安全対策における転倒・転落の防止策および感染防止が理解できる。 4. 看護における安楽の意義を理解し、患者・看護者に活用できるボディメカニクスの原理を理解できる。 5. 生活の場としての環境を理解し、環境調整の援助が実施できる。		
授業内容・授業計画 I. 技術概要 1. 看護行為の構造 2. 看護技術の基本姿勢 II. コミュニケーション 1. 人間関係におけるコミュニケーションの意義と信頼関係を築く条件 2. コミュニケーションの基礎的知識 ①構成要素 ②影響因子 3. 「傾聴」「伝える」「うけとめる」技術 4. 共感的コミュニケーション 5. プロセスレコード III. 安全 1. 安全の意義 2. 医療安全対策 3. 転倒・転落の防止策 4. 感染防止 ①標準予防策 ②感染経路別対策 ③消毒・滅菌 ④感染性廃棄物の取り扱い IV. 安楽 1. 安楽の意義 2. ボディメカニクスの原理 3. ボディメカニクスの看護行為への活用 4. 看護行為への適用 V. 環境調整 1. 環境とは 2. 環境調整の援助 ①環境調整に必要なアセスメント ②ベッドメイキング ③就床患者のシーツ交換		
受講上の注意 *主体的に参加すること	評価方法 各単元担当者の評価方法に準ずる <安全・安楽> 35点 <コミュニケーション> 25点 <環境整備> 40点	
テキスト・参考書 1) 茂野 香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 2) 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 3) 任 和子他：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 4) 秋葉 公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューヴェルヒロカワ		
実務経験： 本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 基礎看護技術 I - 2 (共通基本技術) フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント	実施時期 ：1 年次前期 単 位 ：1 単位 時間数 ：30 時間	担 当 早 渕 千 尋
授業目標 1. 看護における観察の目的と方法が理解できる。 2. バイタルサイン測定の目的と意義を理解し、正確に測定するための技術の習得と記録・報告ができる。 3. フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、アセスメントの基本技術を学ぶ。		
授業内容・授業計画 I. 看護における観察 1. 観察とは ①観察の目的と方法 ②観察手段 2. 観察の視点 ①身体面（身体測定） ②精神面 II. バイタルサイン 1. バイタルサインとは 2. 体温 ①目的と測定部位の特徴 ②測定方法 3. 脈拍 ①脈拍のしくみと測定の意義 ②脈拍測定方法と異常の判断 4. 血圧 ①血圧のしくみと変動因子 ②血圧測定の原理 ③血圧測定方法 5. 呼吸 ①呼吸の観察方法 ②異常呼吸と随伴症状 6. 記録 ①記録の目的 ②記録方法と種類 7. 報告 ①報告とは ②報告方法 III. フィジカルアセスメント 1. フィジカルアセスメントとは ①看護におけるフィジカルアセスメント ②基本技術（視診、触診、聴診、打診） 2. 呼吸器系のアセスメント ①呼吸と循環はセット ②肺と心臓の位置 ③アセスメントのポイント（症状・基本技術） 3. 循環器系のアセスメント ①循環器特有の症状 ②脈拍と血圧測定が原則 ③心臓の位置と心音 4. 腹部のアセスメント ①腹腔内臓器 ②基本技術		
受講上の注意 ＊正しい測定方法とその原理をしっかり理解する	評価方法 終講テスト 100 点	
テキスト・参考書 1) 茂野 香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 2) 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 3) 堺 章：新訂 目で見えるからだのメカニズム 医学書院 4) 任 和子：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院		
実務経験 ：本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 生活援助技術 I 活動・休息 食事 排泄	実施時期 ：1年次前期 単 位 ：1単位 時間数 ：30時間	担 当 福重 敬子 春田 涼香
授業目標 1. 生活に必要な活動・運動の意義を理解し、ボディメカニクスを活用した基本的技術を習得する。 2. 休息・睡眠の意義を理解し、健康を維持するための援助ができる。 3. 健康と栄養の関連を理解し、栄養状態を整えるための基本的技術を習得できる。 4. 排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄方法のアセスメントと基本的技術を習得できる。		
授業内容・授業計画 I. 活動・休息 1. 活動・運動とは ①活動・運動の意義 ②体位の種類と身体への影響 ③安楽な体位（ポジショニング）④同一体位による弊害 2. 活動・運動のアセスメント ①運動能力のアセスメント ②日常生活動作（ADL） ③手段的日常生活動作（IADL） 3. 活動の援助 ①体位変換の目的と基本動作 ②歩行・移動介助 ③車椅子移動・移送 ④ストレッチャーへの移動・移送 4. 休息・睡眠とは ①休息・睡眠の意義 ②睡眠のメカニズムと特徴 ③睡眠のアセスメント ④睡眠障害への援助 II. 食事 1. 栄養の基礎知識 ①栄養素と栄養所要量 ②消化と吸収 2. 食事の意義と食事援助の目的 3. 食事・栄養のアセスメント ①栄養状態 ②水・電解質 ③食欲 ④摂取動作および行動 4. 食事介助（嚥下障害を含まない）：①経口摂取の援助 5. 非経口的栄養摂取の援助：①経管栄養法（適応、実際、観察） III. 排泄 1. 排泄の意義 2. 正常な排泄とは ①排尿・排便のメカニズム ②排泄行動 ③尿・便の特徴 3. 排泄用具の種類と特徴 4. 排泄のアセスメント（排泄動作・排泄機能を踏まえての排泄方法の選択） 5. 排泄援助 ①排泄環境の調整 ②排泄用具の選択 ③排泄援助（自然排尿・排便、床上排泄、トイレ） 6. 排尿障害時の援助 ①排尿障害時の援助 ②導尿（一時的・持続的）の目的と実施上の注意点 7. 排便障害時の援助 ①浣腸 ②摘便 の目的と実施上の注意点		
受講上の注意 *排泄援助の特徴を理解し、演習に取り組む	評価方法 各単元の評価方法に準ずる <活動> 30点 <食事> 30点 <排泄> 40点	
テキスト・参考書 1) 茂野 香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 2) 任 和子：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 3) 境 章：新訂 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2023. 4) 秋葉 公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューヴェルヒロカワ 5) 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院		
実務経験 ：本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 生活援助技術Ⅱ 衣生活 清潔	実施時期 ：1年次後期 単 位 ：1単位 時間数 ：20時間	担 当 早 渕 千 尋
授業目標 1. 人間にとっての衣服の意義を理解し、健康障害に応じた衣生活の基本的技術を習得できる。 2. 清潔の意義を理解し、身体各部位に応じた清潔方法をアセスメントし、対象に応じた援助方法について基本的技術を習得できる。		
授業内容・授業計画 I. 衣生活 1. 衣服の意義とニーズ ①生理的・心理的・社会的意義 ②衣服気候 2. 病衣の選択条件と交換の基準 3. 衣生活のアセスメント（更衣動作と寝衣の選択） 4. 衣生活援助 ①臥床患者の寝衣交換 ②パジャマ交換 II. 清潔 1. 清潔の意義と目的 2. 清潔行動のアセスメント（清潔動作と清潔方法の選択） 3. 入浴・シャワー浴介助 4. 部分浴 ①足浴・手浴 ②陰部の清潔保持 5. 全身清拭 6. 洗髪 7. 口腔ケアと整容・爪きり		
受講上の注意 ＊主体的に参加すること	評価方法 <衣生活・清潔> 終講テスト 100点	
テキスト・参考書 1) 茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2) 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 3) 任 和子：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 4) 秋葉 公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューヴェルヒロカワ 5) 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院		
実務経験 ：本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 看護技術総合演習 生活援助複合試験 事例演習	実施時期 ：1年次通年 単 位 ：1単位 時間数 ：30時間	担 当 福重 敬子 島田 渉子 早瀬 千尋
授業目標 1. 既習の共通基本技術・日常生活援助技術を複合して、対象に必要な援助の判断ができる。 2. 既習の共通基本技術・日常生活援助技術を複合して、対象に適した援助を実践できる。		
授業内容・授業計画 I. 生活援助複合試験 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定 ・快適な療養環境 ・車椅子移乗・移送、体位変換 ・清拭・寝衣交換・体位変換 上記項目の実技練習及び学生同士で評価し、生活援助を実践し、試験を行う。 II. 事例演習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例：脳梗塞 2. 日常生活援助：食事、排泄、活動・休息、衣生活・清潔 		
受講上の注意 *主体的に参加すること	評価方法 <生活援助複合試験> ・複合試験 70点 <総合演習> ・評価表に基づく評価 30点	
テキスト・参考書 1) 茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 2) 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 3) 任 和子：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 4) 秋葉 公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューヴェルヒロカワ 5) 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院		
実務経験 ：本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 臨床看護総論 症状別看護 救急法	実施時期 ：1年次後期 単 位 ：1単位 時間数 ：30時間	担 当 長野 ゆかり 春田 涼香 他
授業目標 1. 健康障害を持つ対象の代表的な状態を理解できる。 2. 主要症状のある対象の観察とアセスメントを行い、必要な看護援助について理解できる。 3. 学習課題を自ら発見し、その解決に向けて個人・グループ学習を通し、主体的・能動的に学習を進める事ができる。 4. 救急状況をもたらす状況のアセスメントに必要な知識と技術を習得できる。		
授業内容・授業計画 I. 症状別看護の重要性と看護の展開方法 II. 主要症状別の看護 1. PBL学習とは 2. 学習課題の提示 ・発熱・呼吸困難・浮腫・痛み・下痢・便秘・不安 など 3. グループ学習 4. 全体発表 III. 救急法 1. 生命の危機状況のアセスメントと応援要請 2. 一次救命処置（BLS） 3. 止血法		
受講上の注意 ＊既知の知識・経験をもとに新たな知識を主体的に学習する。 ＊救急法については、体験学習をする。	評価方法 各単元の評価方法に準ずる。 <症状別> 80点 <救急法> 20点	
テキスト・参考書 1) 香春 知永：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 2) 高木 永子：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 学研 3) 大橋 健一：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 4) 田中 越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 5) 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 6) 堺 章：目で見るからだのメカニズム 医学書院		
実務経験 ：本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 地域とくらし	実施時間： 1年次 前期 単位： 1 単位 時間数： 30時間	担当 小村直子
授業目標 地域の暮らしの実際から市（自治体）、社協、患者会などが健康な生活に向けて行っている支援を理解し、健康な暮らしに向けての課題を他者と共有しながら見出ししていく力、またそれを人に伝える力を身につける。 事例を通して、多職種や住民の話を聴きながら、地域の暮らしを支える多様な人々と連携・協働し、変化する時代や社会のニーズに対応する力を身につける。		
授業内容・授業計画 1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象は、地域で暮らす全ての人である。 2) 地域・在宅看護の対象である“その人”は個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムのなかにある。 3) 各ライフステージの特徴を知る 4) 小児期・成人期・高齢期の特徴 5) 生活習慣・活動、価値観など 6) 健康レベルの多様性を知る 7) 健康観、生き方など 2. 地域の特性を知る 1) “地域の特性を知る”手がかりとして、人工構成・産業構成・住民・文化そして人口密度という切り口から全国と比較する。 2) 値観、生活スタイル、そして健康観など、地域によって実に様々なことがわかる。 3. 地域の多様性やライフスタイルの理解を看護にどのようにいかすか 1) アプローチする地域の特性を知る。 2) インターネットや統計資料の活用例の確認		
受講上の注意 1) 遅刻・欠席をせずに毎回必ず出席する。 2) 時間を遵守し、ONとOFFを明確にする。時間いっぱい討議および学習する。 3) 積極的に仲間と交流し、学習目標を達成する。 4) 担当課題について、地域に住む人々の健康と暮らしを支援するために必要な情報を自ら収集する	評価方法 1) 出席 2) グループ貢献度 3) 課題レポート ①事前課題 ②課題 ③課題レポート 4) 発表評価： ①地域資源マップ ②地域の特性と課題 ③発表原稿・質疑応答	
テキスト・参考書 1. 河原 加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 第6版 医学書院 2. 村上 須賀子他：医療福祉総合ガイドブック 2023年度 医学書院 3. 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2023/2024		

科目名 地域で暮らす人と看護	実施時間： 1年次 後期 単位： 1 単位 時間数： 30時間	担当 小村直子
授業目標 地域の暮らしを支える多様な人々と連携・協働し、変化する時代や社会のニーズに対応する力を身につける。		
授業内容・授業計画 目標Ⅰ 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 1. 暮らすということ 子供を生み育てる 学ぶ 働く 病を治す 老いとともに生きる 最期を迎える 2. 支え合って生きるとは 家族・仲間・近隣の人々・学校や職場・支え合い（ボランティア） 3. 地域の生活環境が健康に与える影響 ・文化的環境・社会的環境・自然環境 目標Ⅱ 地域・在宅論の対象と看護の基盤になる概念を理解する。 1. 地域・在宅論の対象 ・地域に暮らす人々 ・健康状態（健康の良い状態～終末期まで） ・発達段階（胎児期～老年期まで） ・家族 2. 健康と暮らしを支える看護 ・地域包括ケアにおける看護の役割 ・自助／互助／共助／控除の意義と役割 ・家族を支える看護 ・多職種連携、協働の意義と方法 3. 看護が提供される多様な場 ・病院（外来、入院）診療所 ・居宅（自宅、施設） ・療養通所介護事業所 ・訪問看護事業所 ・看護小規模多機能型居宅介護 ・通所サービス ・地域包括支援センター ・介護施設、老人保健施設など		
受講上の注意 1) 遅刻・欠席をせずに毎日必ず出席する。 2) 時間を遵守し、ONとOFFを明確にする。 時間いっぱい討議および学習する。 3) 積極的に仲間と交流し、学習目標を達成する。 4) 担当課題については、自ら関連する科目や地域の実情を調べ、討議に臨む。	評価方法 1) 客観的試験 2) 課題・小テストほか 3) 専門家グループ（専門家学習、個人課題5点） 4) 発表評価 5) 最終レポート	
テキスト・参考書 1. 河原 加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 第6版 医学書院 2. 河原 加代子他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 第6版 医学書院 2. 村上 須賀子他：医療福祉総合ガイドブック 2023年度 医学書院 3. 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2023/2024		

講義概要 (シラバス)

<p>科目名</p> <p>こころの健康と疾病</p>	<p>実施時期: 1年次後期</p> <p>単 位: 1単位</p> <p>時 間 数: 30時間</p>	<p>担 当</p> <p>非常勤講師</p>		
<p>授業目標</p> <p>1, こころのはたらきとしくみから、自己の形成過程と精神の健康について理解できる</p> <p>2, 主な精神症状の特徴と精神障害の診断および分類、治療について理解できる</p> <p>3, 感情労働としての看護職のメンタルヘルスの必要性が理解できる</p>				
<p>授業内容・授業計画</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>1, こころの健康</p> <p>1) 心の発達</p> <p>①発達段階を学ぶ理由</p> <p>②身体の成長と心の発達</p> <p>③発達の原則</p> <p>④心の発達理論</p> <p>⑤心のしくみと人格の発達</p> <p>⑥心理社会的発達</p> <p>⑦心の発達の評価</p> <p>2) クライシス</p> <p>①クライシスとは</p> <p>②クライシスの分類</p> <p>③クライシスの発生と経過</p> <p>④危機介入</p> <p>⑤発達段階での危機と危機介入</p> <p>3) 防衛機制・メンタルヘルス</p> <p>①意識と無意識と危機</p> <p>②危機のプロセスと看護介入</p> <p>③医療現場の人間関係</p> <p>④医療現場における精神的アプローチ</p> <p>⑤医療現場における危機の諸相</p> <p>4) 災害支援</p> <p>①災害の及ぼす心理的影響</p> <p>②被災者・被害者に対するケア</p> <p>③救援者の受ける心理的影響</p> <p>5) 終末期支援</p> <p>①緩和ケア</p> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>2, こころの疾病</p> <p>1) 精神症状</p> <p>①精神症状</p> <p>②中枢神経症状</p> <p>2) 精神疾患 (病態)</p> <p>①精神障害の理解</p> <p>②主な疾患の診療</p> <p>3) 検査と治療</p> <p>①精神科的診察</p> <p>②各種検査</p> <p>③各種治療法</p> </td> </tr> </table>			<p>1, こころの健康</p> <p>1) 心の発達</p> <p>①発達段階を学ぶ理由</p> <p>②身体の成長と心の発達</p> <p>③発達の原則</p> <p>④心の発達理論</p> <p>⑤心のしくみと人格の発達</p> <p>⑥心理社会的発達</p> <p>⑦心の発達の評価</p> <p>2) クライシス</p> <p>①クライシスとは</p> <p>②クライシスの分類</p> <p>③クライシスの発生と経過</p> <p>④危機介入</p> <p>⑤発達段階での危機と危機介入</p> <p>3) 防衛機制・メンタルヘルス</p> <p>①意識と無意識と危機</p> <p>②危機のプロセスと看護介入</p> <p>③医療現場の人間関係</p> <p>④医療現場における精神的アプローチ</p> <p>⑤医療現場における危機の諸相</p> <p>4) 災害支援</p> <p>①災害の及ぼす心理的影響</p> <p>②被災者・被害者に対するケア</p> <p>③救援者の受ける心理的影響</p> <p>5) 終末期支援</p> <p>①緩和ケア</p>	<p>2, こころの疾病</p> <p>1) 精神症状</p> <p>①精神症状</p> <p>②中枢神経症状</p> <p>2) 精神疾患 (病態)</p> <p>①精神障害の理解</p> <p>②主な疾患の診療</p> <p>3) 検査と治療</p> <p>①精神科的診察</p> <p>②各種検査</p> <p>③各種治療法</p>
<p>1, こころの健康</p> <p>1) 心の発達</p> <p>①発達段階を学ぶ理由</p> <p>②身体の成長と心の発達</p> <p>③発達の原則</p> <p>④心の発達理論</p> <p>⑤心のしくみと人格の発達</p> <p>⑥心理社会的発達</p> <p>⑦心の発達の評価</p> <p>2) クライシス</p> <p>①クライシスとは</p> <p>②クライシスの分類</p> <p>③クライシスの発生と経過</p> <p>④危機介入</p> <p>⑤発達段階での危機と危機介入</p> <p>3) 防衛機制・メンタルヘルス</p> <p>①意識と無意識と危機</p> <p>②危機のプロセスと看護介入</p> <p>③医療現場の人間関係</p> <p>④医療現場における精神的アプローチ</p> <p>⑤医療現場における危機の諸相</p> <p>4) 災害支援</p> <p>①災害の及ぼす心理的影響</p> <p>②被災者・被害者に対するケア</p> <p>③救援者の受ける心理的影響</p> <p>5) 終末期支援</p> <p>①緩和ケア</p>	<p>2, こころの疾病</p> <p>1) 精神症状</p> <p>①精神症状</p> <p>②中枢神経症状</p> <p>2) 精神疾患 (病態)</p> <p>①精神障害の理解</p> <p>②主な疾患の診療</p> <p>3) 検査と治療</p> <p>①精神科的診察</p> <p>②各種検査</p> <p>③各種治療法</p>			
<p>受講上の注意</p>	<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			
<p>テキスト・参考書</p> <p>1, テキスト 精神看護の基礎</p> <p>2, テキスト 精神看護の展開</p> <p>3, 以上をまとめ集約した配布資料</p>				

科目名 看護の実践と安全 I	実施時期： 1 年次 後期 単 位： 1 単位 時間数 : 30 時間	担 当 平田 美樹 春田 涼香
授業目標 1. 日常生活援助における「気づき」につながる看護の視点がわかる。 2. 保健医療福祉において各専門職の関与する領域を理解する 3. 多職種間のコミュニケーションの場で自身の意見を述べるができる。 4. 医療におけるヒューマンエラーの現状を知り、看護援助におけるリスク感性を高める重要性を理解する。		
授業内容・授業計画 I 看護の実践 I 1. 多職種連携教育 (IPE) 1) 専門職の役割と活動内容 2) 多職種間のコミュニケーション、社会人基礎力 2. 学習課題の提示 3. グループ学習法 4. 全体発表 II 医療安全 I 1. 医療安全の重要性 1) 医療安全を学ぶ意義 2) 看護者の倫理綱領 2. 看護職の責任と医療安全の取り組み 1) 看護職の法的責任 (①安全への医療職の責務 ②看護専門職としての責務) 2) 医療安全の取り組みと現状 (①国の取り組み ②医療システム) 3. ヒューマンエラー 1) 人はなぜ間違いをおこすのか 2) 医療事故とヒューマンエラー 4. 医療事故と看護業務 1) 医療事故とは 2) 看護事故防止の考え方 5. 療養上の世話におけるリスク 1) 療養上の世話における事故防止 「事例演習」 2) 転倒・転落の事故防止 (①発生構造 ②事故防止の考え方 ③患者要因と対策 ④看護師介入と対策) 3) 危険予知トレーニング：KYT (①危険予知トレーニングの進め方 ②場面における危険の予測と対策) 6. 学生倫理 1) 事故発生時の対応 (①報告 ②インシデントレポート)		
受講上の注意 既知の知識・経験を基に、新たな知識を主体的に学習する。	評価方法 医療安全 : 終講試験+演習課題 看護の実践 : 課題レポート+発表評価+出席ほか	
テキスト・参考書 川村 治子 : 系統看護学講座 統合分野 医療安全 第5版 医学書院 茂野 香おる他 : 系統看護学講座 看護学概論 第17版 医学書院 茂野 香おる他 : 系統看護学講座 基礎看護技術II 第18版 医学書院 任 和子他 : 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院		
実務経験 : 本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。		

科目名 ライフサイクルと暮らし	実施時期： 1年次 後期 単 位： 1単位 時 間 数： 30時間	担 当 平田 美樹
授業目標 1. 発達段階各期の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 健康に影響を及ぼす要因を知り、発達段階各期にみられる健康障害について理解できる。 3. 健康な生活の保持・増進のための保健対策と、その活動について理解できる。		
<授業内容・授業計画> 1. 成人看護の対象と特徴 1) 成人看護の対象 ①成人の定義 ②成人各期の成長発達の特徴（発達理論） 2) 成人の生活スタイルと健康問題 ①成人保健の動向 ②成人期にみられる健康障害 ③健康な生活のための保健活動・保健対策 2. 母性看護の対象と特徴 1) 母性看護の対象 ①母性の定義 ②女性のライフサイクルと家族 ③生殖器の形態と機能 ④セクシュアリティ ⑤リプロダクティブヘルス/ライツ 2) 女性の各期の生活スタイルと健康問題 ①思春期 ②成熟期 ③更年期 3. 小児看護の対象と特徴 1) 小児看護の対象 ①成長・発達の特徴 ②成長と発達の評価 ③成長・発達に関する理論 2) 小児と家族を取り巻く環境 ①保健統計からみた小児と健康問題 ②児童福祉、母子保健、学校保健、予防接種 4. 老年看護の対象と特徴 1) 老年看護の対象 ①発達段階・発達課題 ②加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化 ※体験演習含む 2) 高齢者の生活スタイルと健康問題 ①老年保健の動向 ②高齢者の生活と健康状態 ③高齢者を支える制度と保険活動 5. 精神看護の対象と特徴 1) こころの健康とはたらき ①各発達段階におけるこころの発達と精神健康上の問題（発達理論・発達過程） 2) 危機の概念と危機理論 <p style="text-align: center;">※各期のライフスタイルの体験・見学演習を含みます</p>		
受講上の注意 事前課題やテキストで予習し授業に臨むこと グループ学習には積極的に参加すること	評価方法 2/3の出席をもって評価の対象とする 課題学習の提出状況と内容 10点 小テスト 10点 終講テスト 80点	
テキスト・参考書 系統看護学講座 専門 『成人看護学総論』医学書院 系統看護学講座 専門 『母性看護学概論』『女性生殖器』医学書院 系統看護学講座 専門 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 医学書院 系統看護学講座 専門 『老年看護学』医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『精神看護学[1] 精神看護の基礎』 医学書院 国民衛生の動向 2024/2025 スタディガイド 2025		
本授業は看護師として実務経験のある教員による授業である。		